

古堤街道を往く⑫
「北野神社と泉勝寺」

北野神社(左)と泉勝寺



泉勝寺創建当時から伝わる「方便法身尊像」

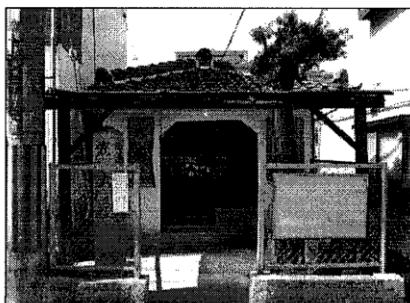
赤井2丁目の街道沿いに、北野神社と泉勝寺が並んで鎮座しています。北野神社のすぐ西には、北側の低地へ下るなだらかな坂があり、街道がもともと寝屋川の堤防であったことがよく分かります。

まずは、北野神社から紹介します。前回も触れたように、赤井はもともと水野村の一部でしたが万治元年(1658)に赤井村ができる後もしばらくの間は現在の大東町に所在する水野北野神社が赤井・水野両村の鎮守でした。赤井の北野神社は、明治35年(1902)、祭神・普原道真の千回忌を記念し、地元の有志によって建てられた、市内でも比較的新しい神社です。

一方、北野神社の東隣の泉勝寺の歴史は古く、戦国時代の天文8年(1539)、本願寺から「方便法身尊像」が与えられたことに始まります。当初は、浄土真宗の布教拠点である惣道場でしたが、天和3年(1683)に東本願寺から「泉勝寺」の寺号が与えられ正式な寺院となりました。この頃に木像の「阿弥陀如来立像」が本尊となりました。かつては南向かいにある現在の赤井公民館の場所にありました

が、安政2年(1855)の大地震で本堂が倒壊した後、倒壊した材木を再利用して現在地に再建されました。なお、現在の本堂は平成5年にできたものです。泉勝寺には、尊像・木像のほかにも、貞享2年(1685)に東本願寺から与えられた「親鸞聖人絵像」、「蓮如上人絵像」などの貴重な宝物が伝わっています。

泉勝寺のすぐ東には主要地方道八枚線が南北方向に走っており、そこからさらに300メートルほど東へ行くと、多くの人にぎわう住道駅付近に至ります。次回からは駅周辺の旧跡について紹介します。

古堤街道を往く⑬
「大峯堂と住道駅前にぎわい」

大峯堂と道標



住道駅北側の繁華街

(生涯学習課)

八尾枚方線から東へ200メートルほど進むと、フェンスに囲まれたお堂が左手に見えられます。お堂には「大峯」と書かれた表札が掛けられ、修験道の祖・役行者が祭られています。修験道とは、奈良時代に日本古来の山岳信仰と仏教が融合してきた宗教で、靈場(修行の場)として知られた大峯山(奈良県)へは昔から多くの人が参詣に訪れました。

大峯堂は、大峯講という信仰集団の拠点で、50年前に赤井北野神社の南側から現在地に移ってきました。かつては「男は一生に一度は大峯山に参らなければいけない」と言われ、毎年春の有志が修行のため大峯山に参り、村に帰つて来る大峯堂で護摩を焚き、修行の無事に感謝したそうで

す。また、大峯山参詣は適齢期の子どもが大人入りする儀式としても行われました。

大峯堂の手前には「左大坂、右大峯三十三度道」と刻まれた道標があり、古堤街道が大峯山への参詣ルートとしても利用されていたことが分かります。この道標は明治18年(1885)に建てられたもので、生駒宝山寺や奈良、伊勢などの行き先も刻まれています。

大峯堂を後にし東側の墓地を越ると、JR住道駅北側のロータリーに出てきます。付近には多くの商店や飲食店が並びにぎわいを見せています。ロータリーからスロープを上がって行くと、待ち合わせ場所やさまざまなイベント会場として利用されている駅前デッキに出ます。デッキの真下は恩智川と寝屋川の合流地点となっていて、が、かつてここには角堂浜と言われる船着き場がありました。次回は、在りし日の角堂浜をご紹介します。